

自己点検・自己評価報告書(平成29年度)

学校法人瓶井学園 日本メディカル福祉専門学校
こども福祉学科
平成30年4月1日作成

1 学校の教育目標

こどもにとって重要な乳幼児期に関わる専門職として、保育の現場で必要となる専門知識・技術を持ち、こどもの気持ちに寄り添いながら、こどもを取り巻く種々の環境を調整するための的確な判断と対応ができる優れた保育士を育成する。

また、少子化が進み、家庭や地域での子育て力の低下が指摘され、こどもだけでなく保護者に対しても個々の状況に応じた支援が求められているなか、社会福祉士国家資格や幼稚園教諭1種免許状を併せて取得し、ソーシャルワークのスキルを持った保育士として専門的かつ実践的に関わっていくことのできる人材を育成する。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 保育に携わるものとして求められる公共心、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 有識者や保育現場等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技術修得を目指し、授業内容を充実させる。
- (3) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (4) ホームページの充実を図る等して、本学科の認知度の向上に取り組む。
- (5) 教員の資質・指導力を向上させるための施策を増やす。
- (6) 就職支援の充実を図り、学生の希望が実現できるように情報収集と個別指導を徹底する。
- (7) 学生数が減少し、集団教育の成果が得られにくい場面も散見される。全職員が一人でも多くの入学生を確保するための広報活動に積極的に取り組む。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。
- ・入学式終了後に保護者説明会を実施しているが、学生の教育に関して保護者の理解、連携をより深めるためにも、説明会や懇談会の実施等の取組が必要である。
- ・社会福祉士の受験資格取得を希望する者には、本校の社会福祉士科通信課程に在籍させ、国家試験合格に向けた学習を全面的にバックアップしている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・「中途退学・除籍者」の低減を図るとともに正規学生による定員充足を図る努力が必要がある。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、学生の学内の様子なども取り入れながら、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直すようにする。
- ・業務効率化を図る情報システム化については一応整備されているが、引き続き改善の見直しが必要である。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはできているか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する保育士養成施設として、法に基づきカリキュラムを編成し、適正に運営されている。
- ・保育士資格は卒業と同時に取得でき、カリキュラムの上で明確に目標として定められている。
- ・大学・大学院卒の入学者は、社会福祉士国家資格（受験資格）、幼稚園教諭1種免許状も併せて取得できるカリキュラムを設定し、卒業後の活躍の場を広げている。
- ・各科目の指導内容方法等は、所定のシラバスを作成し講義概要として学生に配付している。各科目のシラバスでは、主に授業項目、授業内容を明記している。
- ・法令により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識について十分なレベルの教職員を確保できているが、より一層のスキルアップを目指し教職員の外部研修の受講や国家資格取得を奨励している。
- ・講師要件を備えた専任教員を増員し、学生の特性に配慮した授業を展開できるようにしている。
- ・単位認定や卒業要件を明示するとともに、各担当教員は厳密に成績評価を行い、認定会議を経て単位認定を行っている。
- ・カリキュラムとは別に、関連施設である「豊新かめっこ保育園」での実習を行い、カリキュラムの実習との違いを認識させるような取り組みを行っている。さらに、当校教員が保育のカリキュラムの一貫として園児全員を対象としてリトミック指導する際に学生も指導技術を学ぶ目的で参加させている。
- ・逐次職員が研修に参加して能力の向上を図り、研修後は、学内で研修の報告会を実施し、研修に参加しない職員の能力についても向上を行っている。
(平成30年度改正の保育所保育指針についての外部研修を受講し成果を共有した。)

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1	
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・面接指導等、就職に向けての指導を十分に行っている。
- ・例年、本校で取得できる免許や資格を活用して就職率 100%を目指している。平成 29 年度は就職希望者全員が希望職種に就職できた。担任を中心とした就職情報収集と就職指導を継続実施している成果が表れている。
- ・社会福祉士国家試験受験者は全員が合格した。
- ・平成 29 年度は、2 年生で中途退学者 1 名あり、休学者は皆無であった。また、常習的に遅刻する 1 年生への対応に担任はじめ教務職員が苦慮していた。欠席状況などを迅速に把握し、適宜相談に対応していく必要がある。
- ・同窓会委員会を設立する事を目標におき卒業生と連絡をとりながら進めているが、卒業年によっては連絡網が不完全な状況である。平成 30 年度も引き続き卒業生の情報発信ネットワーク構築に努力する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1	
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1	
卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・平成 29 年度の就職希望者の就職率は 100%であった。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学校と相談の上で進路を決定するようにしているので、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・充実した担任の支援もあり、希望職種・希望施設への就職が実現しているところから、今後も引き続き現行の支援体制を維持していきたい。
- ・雇用保険加入歴のある学生には「専門実践教育訓練費および訓練支援金」の利用を勧めている。新卒者等には保育士修学資金の活用を進めている。
学園独自の奨学金(入学金全額免除・授業料一部減額)は、該当者全員が利用している。
- ・学生が心身ともに健全な学生生活を送る為に、定期的に個人面談を行い対人関係、学業などの悩みがある場合は積極的に対応できる体制を整えている。
- ・ボランティア活動に備え、ボランティア保険に加入している。
- ・学園の学生寮に入居している学生については生活環境の把握ができています。親元等から通学している学生については、生活環境への支援は滞りがちである。
- ・平成 28 年度より、前期、後期の成績が確定後、保護者会を開催し保護者に理解と納得が得られるようにし、保護者による学生指導などの協力を得るように取り組んでいく。但し、社会人経験のある学生については保護者の招致を控えている。
- ・卒業生からの転職、キャリアアップ等の相談には随時対応している。
- ・社会人経験のある入学者は目的意識の高い者が多く、大卒限定ではあるが、社会福祉士国家資格、幼稚園教諭 1 種免許状を併せて取得できるカリキュラムを設定している。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
施設及び教育設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省指定カリキュラムに沿った施設・設備を整備している。
- ・学外学習については、1年次に保育実習を10月、施設実習を12月に実施し、2年次には、保育実習7月を行っている。その際、実習先と密接な連携を取りながら、実習を進めている。
- ・産学接続プログラムの一環として関連施設である豊新かめっこ保育園での実習を行っている。
- ・海外研修については、民間企業の研修ツアー等を紹介するにとどまっている。
- ・防災については、消防署による定期的な検査・点検を受け法令に基づいた体制が取れている。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適正な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内においては、授業内容、資格の内容等を示しており、毎年適宜見直し・改良している。ホームページについては除々に内容が充実してきているが、さらに興味を引くような充実した内容に適宜改良を進めている。特に、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める余地がある。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。
- ・平成28年度に創設され各都道府県社会福祉協議会が担当する「保育士修学資金」の利用を勧め経済的に安定した学生生活を送れるように支援している。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、昨年度の問題点の改善に取り組み成果を上げている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確 認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・ 中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れ等を行い各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・ 平成29年度から、日本メディカル福祉専門学校として、医療法人が主催する地域住民への医学公開講座に、教室を無料提供している。
- ・ 2年生の一部学生が、社会福祉士科と連携して地域の子どもたちを対象とした「こども食堂」の運営に協力し、学習指導に携わっている。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切3、 やや不適切…2、不適切1	評価委員 確 認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4 ③ 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4 ③ 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・ 平成28年度は、タイから国費留学生が、学校側の支援と本人の努力が結実し優秀な成績で卒業することができ、更に目標としていた大学への入学も実現した。
- ・ 平成29年度は、留学生の入学は皆無であったが、いつでも受け入れができるだけの学内体制が準備できている。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学生の知識・技術習得、就業意欲の向上のため、学生のみならず保護者に対しても、本校の教育理念・目標を明確に示し、理解を得る必要がある。そのために平成 30 年度は、学生との面談の機会をさらに増やし、細かな目標設定、施設見学やボランティア体験等による将来像の再確認等を行うとともに、保護者が気軽に学校に足を運び、学生の学校生活・学習状況を「授業参観」も交えて把握し、教職員との相談を行うことができる体制づくりに取り組む。

入学者を増やすことが喫緊の課題である。ホームページの充実等の情報発信、広報活動に力を入れるとともに、より実践的な教育内容、内外の研修を活用した教職員の質の向上を図り、在校生に対する教育を充実させることで、入学希望者にとっても魅力ある学科と感じてもらえるよう、重点的な取り組みを行う。

更に平成 29 年度から創設された「保育士等キャリアアップ研修実施機関」にかかる大阪府知事指定を得たことを有効活用し、実践現場のミドルリーダー格保育士の研修校としてもアピールしていく。

オープンキャンパスにおける対応において、保育士養成カリキュラムの中でも最も関心が高い音楽や創作活動等の実践的な科目の一部を体験してもらい、保育士としての適職性について自信を持ってもらえるように働きかける。

卒業生の就職率 100%達成を維持する為に、早い時期から就職支援を実施する。特に競争率の高い就職先(公務員系)へのアプローチは、学力・資質・専門性だけでなく就職活動スキルも必要となるため計画的な支援体制づくりに取り組む。

平成 29 年度も、大阪府福祉部採用担当者を当校に招き「福祉職の仕事内容や採用試験の実際」について具体的な説明を受け、公務員試験にたいするモチベーションを上げることができた。

平成 30 年度においても、有識者や保育施設等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技能の修得を目指し、授業内容を充実させることを目標とする。

平成 30 年度は、大阪府の待機児童解消施策として行われている職業訓練「長期高度人材育成コース(保育士資格コース)」の訓練生(18名)を別科生として受け入れることとした。

本科生と共に、学びの相乗効果が得られるようにクラス運営を実施していく。